

令和2年度 第1回県北広域振興圏地域運営委員会議（8/21開催）における意見・要望に対する対応状況

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
川代 一枝 委員	1	人はやっぱり地域、特に働く世代においては職場や趣味のサークルとかが人間関係の主たるものだが、退職されて70代以降になると地域の方とのつながりが大事なのではないかと感じている。それで改めて、地域を見直したときに60代、70代以降の方だけではなく、もっと広く40代、50代の方が将来参加しやすいような何かそういう取組がこれから必要なのではないか。	保健福祉環境部	<p>県では、高齢者が住み慣れた地域で安心して幸福に生活し続けることができる、地域包括ケアのまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>今年度策定中の「いわていきいきプラン2023」（岩手県高齢者福祉計画・岩手県介護保険事業支援計画）では、高齢者を取り巻く複合的な生活・福祉課題に対応するため、障がい者・子育て支援・地域福祉の各施策も視野に入れた地域課題を把握し、先進事例の情報提供や専門職の派遣といった市町村への広域的な支援調整を推進する等により、地域包括ケアシステムの構築を図っていくこととしています。</p> <p>また、高齢者のみならず地域の様々な世代の住民や多様な主体が参画し、つながることにより、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現に向け、市町村の取組を支援していくこととしています。</p>
川代 利幸 委員	2	若い人材が少ないという事で、いかにこの若い人材を確保していくかというのが今後の課題になっていくのかと思う。色んな、施策等もしていただい	産業振興室	<p>県北局では、産学官及び異業種で構成する「北いわて未来づくりネットワーク」（R1.10設立）を推進基盤として、各事業者における女性活躍や子育て支援環境等の充実を促進し人材</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
		<p>る。これはどこの産業も同じだとは思いますが、この課題に、産官一緒になって取り組んで、人材確保に向けて、指導いただきたい。</p>		<p>確保が図られるよう取り組んでいるところで す。</p> <p>また、コロナ禍においても、若年者が地元企業への理解を深められる取組として、リモート等を活用した生徒と企業の交流会や、中高生に企業紹介動画をPRするなどしています。</p> <p>12月15日には、教育界と産業界が連携し、地域ぐるみで児童・生徒のキャリア教育の充実を図るためのシンポジウムを開催しました。22日には、企業の採用強化・人材確保に向けた研修会を開催する予定です。昨今の感染症の拡大状況を踏まえ、リモートを併用しての開催としました。</p> <p>さらに、12月から1月にかけて、U・Iターンを促進するため、高校生や保護者を対象としたUターン経験者とのトークセッションや出前講座、成人式等の機会を活用した地元企業情報の提供など、地元就業を推進する取組を進めてまいります。</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
小松 由佳 委員	3	With コロナを意識した、観光の計画を考えるべきではないかなという風を感じた。With コロナを意識しオンラインなどを活用しながら、あとコロナ明けのことも想定して準備を進めることが必要なのではないかな。	産業振興室	<p>本年度は、集客型のイベント等の中止が相次ぎイベント出展による観光PRが難しい状況となったことから、事業内容を見直し、北いわてに焦点を当てた特集番組を制作し、北いわての食や見どころ等の情報を発信しました。</p> <p>11月8日には、感染防止対策を講じた上で、普代村を会場としたフォトロゲイニング大会を開催し、60組171名の参加がありました。</p> <p>今後においては、「北緯 40° ナニヤトヤラ連邦会議」を構成する市町村（久慈市、二戸市、八戸市、三八県民局）等と連携し、圏域内の周遊を促進する取組や、近隣での交流事業など、With コロナに対応した事業の実施も検討していきます。</p>
野田 大介 委員	4	施設でクラスターが出たなど、ちょっと今、介護とか医療とかは怖い業界という、もう一つ悪いイメージが付きかけているかなと思っている。ぜひその部分を御承知いただきながら、今第2波が来ていると思う。より一層コロナ対策が必要かなと思っているので、御支援いただければと思う。	保健福祉環境部	<p>介護サービス事業所・施設等では、新型コロナウイルスに感染した場合の重症化リスクが高い高齢者に接触する機会が極めて多いことから、最大限の感染症対策を継続的に行いつつ、必要なサービスを提供する体制を構築する必要があります。</p> <p>このため、県では、介護サービス事業所・施設等における感染症対策を支援する「新型コロナウイルス感染症支援金事業（介護分）」によ</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
				<p>り、衛生用品等の物品購入、消毒・清掃費用、職員の増員、タブレット等の導入など感染症対策に要する経費への支援を行っています。</p> <p>また、すべての県民に対し、感染された方々やその家族などへの思いやりの気持ちを持ち、冷静に行動するようお願いしているとともに、医療関係者をはじめ県民生活に不可欠なサービスの提供に従事している皆さんに感謝と思いやりの気持ちをもって応援するよう呼び掛けを継続して行っています。</p>
藤織 ジュン委員	5	<p>コロナについて、県のほうで、何人出たらとか、この地域にどのくらい出たら何人規模のイベントは中止、公的なイベントは中止するとか、あとは地元のイベントでも自粛を推奨するとか、基準を決めていただければ、私たちもちょっとは動きやすいなと思っている。ニュース次第、クレーム次第でなんでも中止になってしまうと、なかなか働けない方が増えてくるのではないかなと思うところで、そこはちょっと検討して欲しい。</p>	保健福祉環境部	<p>「来年2月末までの催物の開催制限、イベント等における感染拡大防止ガイドライン遵守徹底に向けた取組強化等について」（令和2年11月12日付け内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室）において、令和2年12月から令和3年2月末までの間に開催されるイベントの人数上限及び収容率要件が示されました。</p> <p>これにより、原則として、屋内は「5,000人以下、かつ収容定員の半分程度以内の参加人数」、屋外は「5,000人以下、かつ人と人との距離を十分確保（できるだけ2m）」との従来の取扱いを維持しつつ、「手洗い」、「消毒」、「換気」等の基本的な感染防止策を講じた上で、「マ</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
				<p>スクの常時着用」や「大声を出さない」ことが担保される場合は、収容率を 100%以内とするなど、要件が一部緩和されたところです。</p> <p>つきましては、イベント等の開催に当たっては、この取扱いに留意いただくとともに、関係団体等が作成した「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン」に沿って、日頃から、来訪者や従業員の感染を防ぐため、適切な感染防止対策を徹底していただくようお願いします。</p>
藤織 ジュン委員	6	<p>婚活事業等で、例えば女性と男性で金額が違ったりとか、金額が違うのは男性の方の人数が多かったりとか、そういうことも背景にあると思うが、例えば男性は地域の人限定で、女性はどこ地域からでもいいですよという婚活イベントがあるが、それって女性が仕事を辞めること前提なの、というところで、女性に優しくしようとするあまり、逆に女性に差別的なイベントになっているということが結構あるなというので、そういうことに関してかなり若い人も敏感になってきているので、そういうところを注意して欲しいというか、関心を持って欲しい。</p>	保健福祉環境部	<p>県北局では昨年度から、管内市町村や結婚支援団体との情報交換や連携を図り、活発な結婚支援事業を行っていくことを目的とした「県北広域圏結婚支援関係団体等連絡会議」を設置しており、令和2年9月10日に開催した会議で、委員からのご提言について話題としました。</p> <p>会議では、出席者から、婚活イベントの参加要件に男女で差を設ける場合は、主催者として対外的に説明できる明確な根拠を持つ必要がある等の意見が出されたところであり、今後のイベント開催において留意していくことを共有したところです。</p> <p>県北局としては、市町村や関係団体との連携を一層深め、引き続き、県北地域の結婚支援事業に取り組んでいきます。</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
古舘 英彦 委員	7	縄文遺跡群について、5年くらい前に3県の子供たち、小中高校生の研究発表会みたいなものを一戸でやっていた。毎年じゃなくてもいいので、子供たちが縄文遺跡を通して交流していく、そういったことがすごく大事ななと思っている。今、人が集まるのは難しいが、相手次第で何かそういった機会があればいい。	経営企画部	<p>縄文遺跡群を通じた広域交流については、今年度、御所野愛護少年団やボランティア団体と八戸市の是川石器時代遺跡、鹿角市の大湯環状列石の博物館や団体との交流を目的とした現地研修・意見交換を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止しました。</p> <p>来年度については、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、現在、実施に向けて検討を進めております。</p>
古舘 拓 委員	8	久慈病院でハイリスク分娩ができず、二戸に集約したという話を聞きましたので、もうちょっとそういう場所を支援するなりして、あとはIT、例えばLINEを登録して呼ばれる何分前に連絡とか、そういうものでもうちょっと工夫できないのかなと思う。	保健福祉環境部	<p>県では、県立久慈病院・二戸病院を「県北地域周産期母子医療センター」として位置付け、医療機関の機能分担と連携の下、分娩リスクに応じた医療提供体制の整備を推進しています。</p> <p>また、医療機関や市町村がインターネット回線を通じて、妊婦健診や診療情報を共有し、母体搬送や保健指導に必要な情報をリアルタイムに活用できる、周産期医療情報ネットワーク「いーはとーぶ」による連携強化に努めています。</p> <p>さらに、ICTを活用した妊産婦の健康サポートや、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うため、県立病院と市町村、保健</p>

発言者	No.	御意見・御提言	担当	対応状況・対応方針
				<p>所が連携し、産後ケア等に取り組むこととしており、県北局としても、これらを総合的に推進しながら、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取り組んでいきます。</p>
古舘 拓 委員	9	<p>何でもかんでも再生可能エネルギーと言って、山の木を切ってソーラーパネルを建てるとか、山を崩して平らにして風車を建てるとかというのは、実際に支援を続けていったいいものかどうか考えるべきだと思う。</p>	経営企画部	<p>県北圏域は、太陽光や風力等、再生エネルギーの高いポテンシャルを有することから、その活用を促進するため、管内市町村と連携し事業者等の取組を支援することとしています。</p> <p>一方、当地域は豊かな自然環境も併せ持っていることから、開発規制法等の必要な手続を経るのはもちろんのこと、環境との調和に十分配慮し、地元住民の理解と合意を得ながら再生可能エネルギーの活用を進めていくことが大切であると考えています。</p>